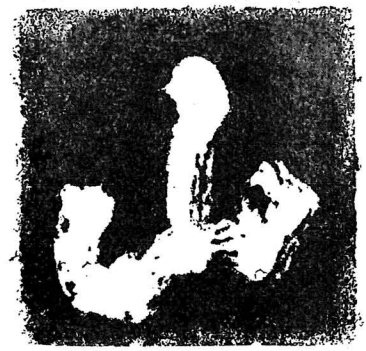




昭和46年(1971年)

2月号 (No. 308)

社団法人 日本山岳会
(J. A. C.)

目次

本文	1
スワット	1
岐阜岳連隊	1
富山女性踏査隊	1
北部スワットの地図	2
ヒンズーラジ	3
慶大山の会登山隊	3
雲表倶楽部	3
ダウラギリ主峰同志社隊	4
ナンガバルバット1970	4
エベレスト登山隊残務処理報告	5
登山隊の解散	5
エベレスト委員会報告	5
帰国直後の公式行事	5
ネパール関係者招待	5
展覧会	6
テレビ放映	6
記録映画	6
地方講演会	6
検討会	6
隊員への公式報告	6
報告書等の出版	7
エベレスト登山会計報告	8
募金報告	9
図書室便り	9
図書受入報告	9
会務報告	10
1月理事評議員会	10
会員異動	10
新入会員	11

B
スワット

二、岐阜岳連隊

隊員、都竹勝(隊長、38)、筋田雅則(25)、岩佐善弘(23)、日比野治美(21)、中原良材(28)。

往路経由地、四・四(先発隊)、羽田、カラチ。五・三(本隊)、羽田、カラチ。五・一五(カラチ、ラワルピండి)五・二二(ピンディ発、二二(カラム)二五(ウトロール、ガブラル)。

活動区域、(地図参照)、ガブラル本谷の源頭付近。登山のあと、カチカニ谷からソル・ラスプールに出、マストゥージ経由、チトラルにでる。

登攀活動 五・三一、キャラバン開始(隊員5名、通訳1名、警官2名、担夫22名、計30名)。ハラハリ谷入口、マイダン。BC(六・一二)、氷河の末端、三五〇〇m。
CI(四二〇〇m、六・六、六・七東側の窓に向う、四六三四mにピバーク、仮のC2。
六・八、P1、P2のホル(五〇一四m)、BCに戻る。

六・一一に書いて托した二〇〇本の手紙は結局一本も日本につかず。

六・一七、全員C1へ。

六・一九、C2(四七〇〇m)

六・二一、岩佐、中原C2発四時、P2(五五〇〇m)一〇・四〇着。

六・二二、全員ホルを越え雪壁を下り、四二四六m(カチカニ氷河上)泊り。

六・二四、泊地(三三三〇m)。

六・二五、ソル・ラスプール。

六・二六、マストゥージ。

六・三〇、チトラル。

帰路、チトラル、ロワライ峠、ディール、ベシヤワール、ピンディ、カラチ、デリー、台北、羽田着(七・一六)。

◇

本隊は五名という小部隊でスワットの奥地に入り、一九六七年に京都教育大学隊が残した部分で一つの初登頂を行ない、完璧な三六〇度写真をとって貴重な資料を齎らした。
その上、チトラルとスワットの州境上にある未知の、しかも急峻なホルを無事に越え、新しい部分を開拓したことは賞讃に値する。但し手続き上に不備な点のあったことは遺憾である。

三、富山女性踏査隊

隊員、有本朋子(隊長33)、竹上邦子(副隊長、32)、田村幸子(32)、黒田久子(23)。

活動地域、カブール、ブニ・ゾム、スワット、コー・イ・ババ。

往路、横浜(6・5)、ソ連経由カブール。シャー・フラディ(五一四三m)の東30kmにある五〇八七mを目指そうとしたが、治安の不安で予定変更、チトラルに向う。

チトラル(6・24)、ブニ、ソノゴール、マストゥージ、ラーマン、バルガム谷へ入る。

クラクマリ(クラボート氷河の入口、6・29)、五〇〇mの岩壁と二本の滝で手がつけられず、戻ってディールシャー(ゴールドハン氷河の入口)、BC(五二〇〇m、同氷河上、7・5)、隊長要調下山、田村に付き添われチトラルへ戻る。

バル、黒田ラスプール河遊歩。

パルガム(7・15)、ソール・ラスプール、カチカニ谷出合、タロー(パシニカルゴロ)湖、マナリ谷出合(7・18)、タロー谷遊歩、タロー・

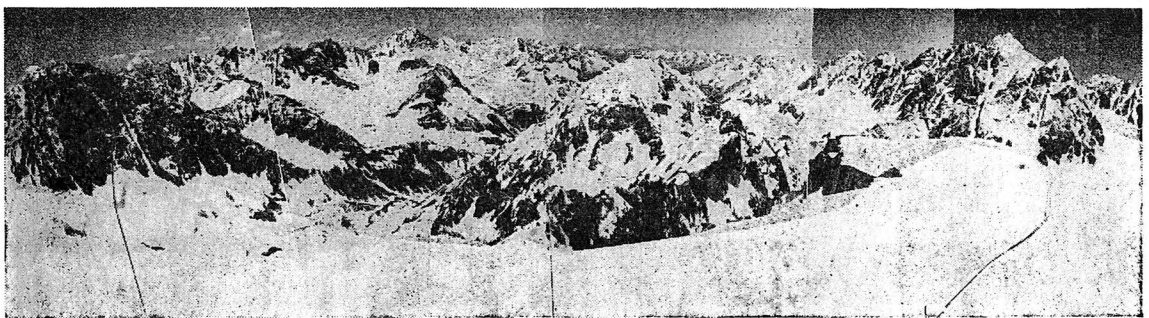
(3頁へ続く)

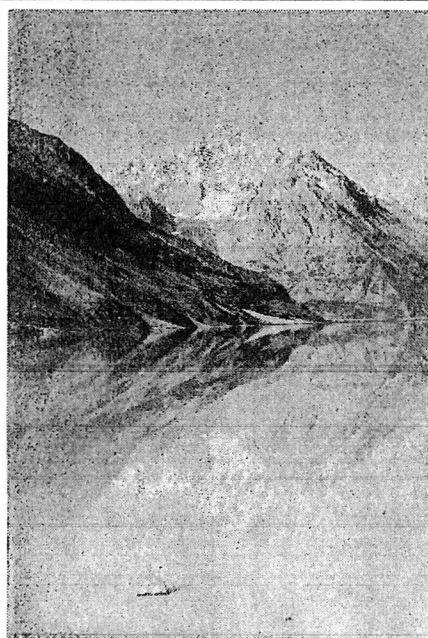
P2(五五〇〇m)から南西、南、南東を望んだもの(下図)

左の遠くに見える三角椎の山はファラク・サール(五九一八m)。中央の左に大きく高いのはミヤングル・サール(現地名、パール、五九九六m、双峰であることがよくわかる)。目前の谷はガブラル本谷。中央の近い屋根形の峰はP3(五三〇〇m)。

一番右の白い高いのが五八七一m。一九六八年に英国隊の一つが初登した山。登路は裏側である。この山はチトラルとスワットの州境をなす山脈にありカチカニ峠(四七六六m)とマナリ峠(四九二二m)の間では最高の峰である。

岐阜隊はこれをホワイト・ピアズと命名したが、英国隊はハラハリと呼んでいる。しかし、一九六七年にハラハリ谷を越った京都教育大隊の事実を考えると、ハラハリ峰の名はこれにつけた方が適切のように思う。この山は写真でいうと、ホワイト・ピアズ群の左端のものと思われる。(吉沢)





タロー (バシカルゴロ) 湖と
ハランビット峰 (奥はハランボイ峰)

この遠行踏査隊は女性のみ四名からなるものであるが、その特異な隊格を充分に發揮して、男性隊では不可能な面において、かなりの成果をあげてきている。

◆

前記の行動記録には現われていないが、私は隊長から直接いろいろその体験を聞いているので、総合的な報告書の一日も早く出ることを期待している。

アン(7・19、ドーム状で全部氷に被われていた)、戻る。マナリ谷出合(7・20)、ハラハリ峠との分岐点(マナリ峠直下四四〇〇m)、峠の頂上(7・22)、スワット側へ下る、ガブラール(7・23)、レスト・ハウスに日本女性二名の署名あり、パドワル峠、ラムテイル(7・26)、カルコット(7・27)、シニガール、デイル(7・29)、ロワライ峠、ドロシニ、チトラル(7・30、隊長、田村と再会)。——カールへ。

バミアン(8・12)、バジカ峠(三七〇〇m)で偵察、五〇八七m峰は手に負えず、ノーム・ジョラット山(四六〇〇m)に登る(隊長、黒田、8・15)。



ビバーク地点(四四〇〇m)からタロー峠、向側はスワット、左右とも富山隊撮影。

一人である。

女性がそれとして危険な存在であることは洋の東西を問わないが、たとえ一国の大会であったとしても、一人での行動は絶対にしてはいけない。危険は思わぬところに待伏せている。男性に近い女性でも同じことである。(吉沢)

C ヒンズー・ラージ

一、H・R踏査隊 (慶応大学山の会)

隊員、船木威志(23)、久保田哲朗(23)、矢田部満(24)。

活動地域、マストゥージ河の支流ゾレン河(一九六七年に東京農大隊が入った)に入るシャキオタリ谷源流とイシニボリリ谷。

登山活動、チトラル(7・17)、ウズゴール(18)、ロジナリ(19)シャキオタリ村の上(21)。

登攀活動、ラスプールの峠の西面、東面で大部苦勞する。

・バシニカルゴロ峰(五四〇〇m)登頂(8・6、イシニボリリ側から四時間、第二登。

・イシニボリリ峰(五九〇〇m)、試登(8・10)、北峰(？)、經由最高到達点(？)、BC。

(8・11)19、イシニボリリ谷からラスプール、マストゥージ、プニ、チトラル。

(注・この仮報告書には各地点の高度が一つも書いてない。いずれ照会して追補する。地図は近いうちにこの「山」へ出るもの(各隊の協力による)を参照されたい。尚、五八二七mのクルイウツ峰はシャキオタリ側からは一寸難しいようである。

◆

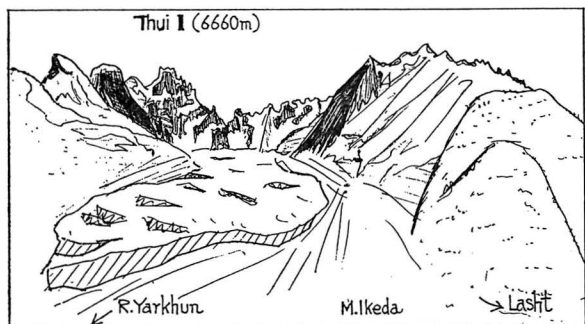
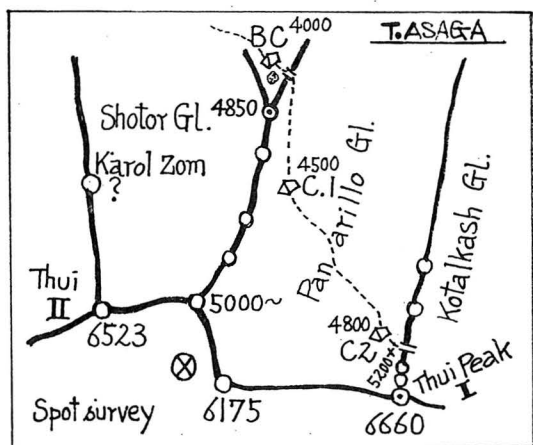
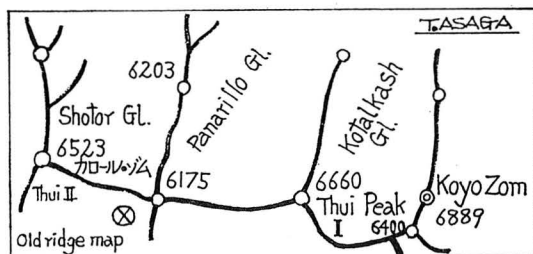
二、雲表倶楽部隊
隊員、浅賀隆明(25)、三好捷介(28)池田雅美(22)。

往路、6・15、17、ビンディから陸路チトラルへ。ベシヤールにて通訳を備う、五〇日間で一〇〇〇ルビ。

19、21、チトラル、プニ、マストゥジ。

※

※



Thui I (6660m)

R.Yarkhun

M.Ikeda

Lastit

HRの未踏峰が毎年幾つかづつ登られていくのはご承知の通りだが、六〇〇〇m以上で登り甲斐のあるものがまだまだ沢山残されていることは同慶の至りである。

ツイのつく三峰も仲々手強いらしい六九年に英隊がII峰で失敗したことは「岩と雪」の18号で詳しく紹介してある。

雲表隊は三人でI峰に挑んで失敗した。天候の悪化にもよるが、氷河も岩場も相当手強いらしいから、今度はもう少し大部隊で行ったらどんなものであるうか。二度でも三度でも攻める価値のある山らしい。

※登攀活動、6・30、パナリロ氷河へ向う。7・1、BC(地図参照)、10、四八五〇m峰に登る。11、C1、14、四八〇〇mまで、15、ツイI峰の北側五二〇〇mまで、19、天候回復の見込みなくBCへ。21、BCよりラシユトへ。

(吉沢)

エベレスト登山残務処理報告

エベレスト委員会

エベレスト登山隊は、昨年六月二十日帰国後、すでに半年を経過しましたが、その間、会報「山」誌上での報告が充分でなかったことをお詫び申し上げます。今回ここに帰国後の残務処理の状況を取りまとめてご報告致します。

登山隊の解散

六月二十日に、井上隊員を除く本隊の全員が帰国したが、現地カムジエンに残留し、モンスーン中の気象観測に従事していた井上隊員が、八月十五日帰国し、ここに全員が帰国した。

しかしながら、カルカッタ港における港湾ストの影響を受け、五十四個口の登山隊貨物が内地へ到着せず、登山隊を解散することができずに困っていたが、ようやく荷物を積んでいた大阪商船三井船舶のビルマ丸は、九月二十七日カルカッタを出港、十月二十日、横浜港に入港。十一月十日通関を完了し十一月中旬、全貨物を無事受領した。そこでかねてから、理事会で了承を得ていた方針に従って荷物の整理を行ない、一部の残務整理を残して、十一月末日をもって登山隊の全業務を終了することになった。（この点は十二月二日の理事評議員会で承認された）

エベレスト委員会ではこの線に従い登山隊の総収支の決算を行ない、文部省、大蔵省当局、毎日新聞社、NHK京都府をはじめとする補助金の交付を受けた地方自治体に対し、総事業の完了報告を行ない、総収支決算書を提出した。これにより、公式報告書編集等の一部の残務整理業務を残し、エベレスト登山の全業務を終了したので、エベレスト登山の事務所を閉鎖し、ここ

に登山隊は解散することになった。

エベレスト委員会報告

登山隊の出発後は、エベレスト登山隊本部は、エベレスト登山留守本部（部長・加藤泰安）に組織を替え、留守本部の業務を遂行してきたが、登山隊帰国を前にして、六月三日の理事、評議員会において、留守本部は解散し、新たに、エベレスト（処理）委員会が編成された。この委員会は、昭和45年度の各小委員会（図書委員会等）と同様の性格の組織で、45年度末まで設置される委員会である。

（委員会の構成）

委員長 三田会長、委員 加藤、村山、大塚、飯野、松田、藤田、松浦、中島、川上、藤井、山崎、宮下以上十四名で構成（委員会議録）

45・6・12（ルーム）、登山隊帰国準備その他。

45・6・16（ルーム）、エベレスト登山隊帰国歓迎準備打合わせ。

45・6・29（ルーム）、エベレスト登山隊の今後の残務処理日程、財政状態の検討等を行なった。

45・7・11（ルーム）、主として経理関係、財政状態等の検討を行なった。

45・8・18 現地費の収支決算状況の報告があり、全登山隊収支の決算見通し等について検討を行なった。

45・12・9 エベレスト登山隊の事業終了に伴い、委員会を開催し、次の諸点につき検討した。

① エベレスト特別会計決算処理方法検討の件。

② エベレスト登山隊収支決算書承認の件、対外的には収支金額一一〇、四九九、二三八円を以て公表することを定める。

③ 対官庁関係に総事業終了報告書類提出の件

④ 文部省に処分制限財産減失届提出の件

⑤ 内地持ち戻り装備品の処分案検討の件

⑥ 募金委員会解散の件

⑦ 公式報告書出版方針検討の件

⑧ エベレスト写真集配付先検討の件

⑨ 成田隊員傷害保険金交渉打ち切り

⑩ エベレスト登山事務所閉鎖の件

上記各項目につき、いずれも原案通り承認する。詳細については各項目の報告で詳しく説明することにする。

なおエベレスト委員会は登山隊の事業終了に伴い解散してはとの意見もあったが、他の小委員会と同様今年度の年度末まで存続させることも再確認した。

帰国直後の公式行事

(1) 賜 謁

松方隊長以下三十七隊員は、六月二十六日午前十時、三田会長、NHK前田会長、毎日新聞社田中会長と共に皇居を訪問、新宮殿北溜（きただまり）で天皇、皇后両陛下に帰国の報告を行った。この後、シルバのチャタレイ、ビンジュの二人も特別に許されて皇居内を参観した。

② 故成田隊員追悼会
六月二十六日、十一時三十分～十二時三十分、ホテル・ニューオータニにおいて、ご遺族と隊員により、故成田隊員の遺影に献花し、その霊を慰さめ生前の同隊員を偲ぶ追悼会が行なわれた。

③ 歓迎兼報告会
六月二十六日十四時より、ホテル・ニューオータニ芙蓉の間において、本会、毎日新聞社、NHK三社共催による歓迎兼報告会が行なわれた。当日は会員関係の他に隊員留守家族、隊員勤務先、寄贈先、協力業者、関係官庁、団体等約五〇〇名が出席し、盛大に行なわれた。

留守本部の部長代理をつとめた村山評議員、三田会長の挨拶のあと、秩父宮妃殿下よりお言葉があり、続いて坂田文相、タクル駐日ネパール大使、NHK前田会長、毎日新聞社田中会長の挨拶があり、松方隊長から全般的な報告が行なわれた。この後、木村隊員撮影のカラー・スライドの上映が行なわれた。

(4) 公式報告会
① 東京地区
六月二十六日、午後六時よりNHKホールにおいて、松方隊長以下全隊員出席のもと、テレビ公開報告会が行なわれた。（このNHKホールでの報告会の模様はビデオテープにおさめられ六月二十七日午後二時から、NHKテレビで放映された。）

② 九州地区
七月一日、福岡市毎日会館ホールにおいて、住吉、平林、渡部隊員により九州地区の公式報告会を行なった。

③ 北海道地区
七月二日、札幌市自治会館ホールにおいて、小西、植村両隊員による北海道地区の公式報告会を行なった。

④ 関西地区
七月六日、大阪市毎日ホールにおいて、大塚、松浦、神山三隊員による関西地区の公式報告会を行なった。

⑤ 中京地区
七月七日、名古屋市の東別院において、大塚、松浦両隊員により、中京地区の公式報告会を行なった。

区の公式報告会を行なった。
なおこれら全国五地区の公式報告会は、本会、毎日新聞社、NHKの三社共催によるものである。

(5) 万博タイムカプセルへエベレスト頂上の石の寄贈
エベレストの頂上の石をタイムカプセルに収納するため、六月二十八日、住吉他四隊員、シルバのチャタレイ、ビンジュの両名が、万国博松下館を訪れ、頂上の石が住吉隊員から松下館の苗加館長に手渡された。この石は二十九日よりタイムカプセルに収められる他の収納物と共に松下館に展示された。

ネパール関係者招待
(1) シェルバの招待
六月の理事・評議員会の決議では、シルバの同行は見送るようにとのことであったが、連絡の行き違いから同行して帰国した。この点については、七月の理事・評議員会で事情が説明され了承された。

登山隊は、帰国に際し、今回のエベレスト登山に貢献したシルバのサード、チャタレイとインド登山学校のインストラクター、ナワン・ビンジュの二名を、同行して帰国した。

両名は六月二十一日は登山隊と行共にテレビ出演。二十二～二十三日都内見物、二十四～二十五日は隊員の案内で富士、湖南方面ドライブ、二十五日夜、レストラン・ブリガンドで隊員の歓迎コメディ、二十六日は宮中参内等公式行事に出席。二十七日、東京内大坂、二十八日万博見物、二十九日京都・奈良見物の後、三十日富山に出て千寿ヶ原の文部省登山研修所を視察。七月一日立山に登った後、二日帰京。二日夜、ネパール大使館におけるタクル大使主催による歓迎レセプション

に出席、三日シヨッピングの後、七月四日のインド航空機によりビンジュは予定通り帰国した。

チャタレーは、その後、ヒマラヤ観光開発株式会社の世話で、銀座日航ホテル、仙台等でホテル業の研修を行なった後、八月七日まで滞在し、八月八日のインド航空機で帰国した。

(2) ビナヤ記者の招待

マナスル以来、毎日新聞社のカトマンドウ臨時通信員として、当会のヒマラヤ計画に終始協力したビナヤ氏(Binaya Gurur Acharya)より「九月下旬、タイ航空の招待でバンコクまで行くが、それから先東京までの旅費の面倒を見て欲しい。自分としては是非とも万国博を見たい」との申し越しがあつた。そこでエベレスト委員会では、松方隊長の意見を入れて、バンコク東京間の往復旅費と十日間の滞在費を負担して、招待することにした。

ビナヤ氏は九月七日羽田着、九日、十二日迄、関西に滞在し、万博、京都奈良の見学、十二日帰京、十三、十四日富士・箱根ドライブ、十六日本会ホールにおいて、隊員を中心とする歓迎パーティーに出席、十七日湘南方面をドライブの後、十九日のタイ航空機にて帰国した。

(3) パラジュリ氏の歓迎

本会東海支部では、マカール登山の協力者としてヒマヤン・ソサエティの事務局長、パラジュリ氏(Parasut Parajuli)とシエルバのカルマの両名を十一月下旬日本へ招待した。両名は十一月二十九日まで東海支部の世話で名古屋を中心として滞在していたが、十一月三十日に、本会エベレスト隊が東海支部からバトン・タッチを受け、十二月二、七日まで加納隊員と中島隊員が接待を担当した。本会ではルームにおいて、十二月三日夜JAC主催の歓迎会を行なった。カルマ氏

は翌四日のルフトハンザ機でネパールへ向け帰国。パラジュリ氏は韓国山岳会の招待により韓国航空機により十二月七日ソウルへ向け離日した。

展 覧 会

本会では、左記により四カ所で開催した。レスト登頂記念の大エベレスト展を開催した。

○主催 本会、NHK、毎日新聞社
○後援 外務省、文部省、駐日ネパール国大使館、日本山岳協会

○協力 バンコク航空
○開催日時並びに会場

8・11、12日(東京) 西武百貨店
8・7、12日(名古屋) 名鉄百貨店

8・15、23日(福岡) 岩田屋百貨店
8・25、30日(大阪) 大丸百貨店

尚東京地区の会場、池袋の西武百貨店においては、一般公開に先立って七月三十一日午後三時から、会場の七階SSSホールで開会式が行なわれ、折

から来日中のヒラリー卿によりテープを切られ、引きつづき記念レセプションが行なわれた。(詳細については「山一三〇三九ページ参照」)

八月一日、午後一時半より会場に隣接するフアウンテンホールにおいて「講演と映画の会」が開催され、三田

会長、大塚登攀隊長の挨拶の後、松浦隊員が「天と地の境に立つて」と題し講演を行ない、引きつづいて、NHK制作の「エベレストへの道」三部作が上映された。

なお展覧会を記念し、立派なパンフレット(頒価三〇〇円)が作成された。

テレビ放映

今回の登山はNHKが後援した関係で、ニュース番組等には、かなりの頻度で放映されたが、帰国後、取材班の

編集になる記録カラー・フィルムは「エベレストへの道」という題名により、次のように放映された。

○七月六日①「三百Kmのキャパラン」(三〇分)

○七月七日②「氷河と闘う」(〃)

○七月八日③「頂上に立つ」(〃)

以上の三本は30分番組として三日間に分けて一九・三〇・二〇・〇〇のゴールデン・タイムに放映され、好評を得た。そこでこの番組は七月九、十、十一の三日間再放映された。

更に八月二十二日には、80分番組の総集編「ドキュメンタリー・エベレスト」が放映され、この番組を更に短かくした60分番組「エベレスト」が十二月二十七日午後放映された。

以上はすべてNHKによる番組であるが、NETテレビでも七月二十六日のビッグスポーツ番組で、アドベンチャー・シリーズの第一作として「エベレスト登頂」が放映された。

なおNHK制作になる「エベレストへの道」三部作は、その後文部省特選となり放送批評家賞(ギャラクシー期間選賞)を受賞した。

更に60分番組の「エベレスト」は、ドイツ語版が制作され、西ドイツのポールハウゼンのスポーツ・テレビフィルム・フェスティバル参加作品として出品され、またアメリカのCBCテレビには、「エベレストへの道」が二万ドルで契約された。

記録映画

別項テレビ放映の項で説明した通りNHKの取材班が撮影したフィルムをもとに制作されたドキュメンタリー・エベレスト全二巻、八〇分のもを16%記録映画として編集プリントし、その中の二本が、NHKより当会へ寄贈された。この二本の映画フィルムは、会

の備品として登録し(登録NO・一四九・一五二号)会員ならびに一般に貸出しを行なうことになった。「映画フィルム貸出規定」については、理事会において別に定める。

地方講演会

九月末にNHK製作になる16%の記録映画が完成したので、十月、十一月にかけて、NHK、毎日、本会支部後援(または主催)のもと各地で講演報告会が開催された。この中、本会が依頼を受けて公式に隊員を講師として派遣して行なった報告会は次の通りである。

なおこの他にも、隊員の勤務先、出身学校その他各地において各隊員による報告会が行なわれたが、ここでは省略する。

記

〔日時〕〔場所〕〔主催者〕〔講師〕

7・2 高山市 文部省全国遭対協 大塚

7・18 米子市 山陰支部 中島

7・29 松本市 信濃支部 植村

8・4 温泉町 高体連 平林

10・3 富山市 教委・富山 大塚

10・3 高岡市 二上高校 土肥

10・15 甲府市 峡北高校 小西

10・16 名古屋 愛知県広報 植村

10・24 吉原市 教委・支部 松田

10・25 静岡市 教委・支部 松田

11・8 見付市 教委・越後 伊藤

11・8 東京都 台東区教委 大塚

11・12 三重県 教委・IB 大塚

11・14 福井市 福井県私立学校協会 河野

11・15 焼津市 植村
11・15 浜松市 加納
11・15 喜多市 市役所 藤田
11・16 東京都 ロータリー 藤田
11・16 新潟市 越後支部 神崎
11・17 長岡市 神崎
11・18 秋田市 秋田支部 鹿野
11・18 山形市 山形支部 藤田

検 討 会

帰国後八月下旬より、各係ならびに医療班等學術調査関係は数回にわたり検討会を行ない、データの整理を行なっているが、登山隊としての公式検討会を左の通り行なった。

(1) 南壁登攀についての検討会
八月三日、(本会会議室)

(2) タクティックスについての検討会
八月二十三日、(本会会議室)

帰国後、隊員による検討会も終わったので、九月三十日午後六時より東京原宿の岸記念体育館大講堂において、本会小集会の形で、次の通りの報告会が行なわれた。

(司会 山崎常務理事)

一、あいさつ 吉沢副会長

一、全般報告 松方隊長

一、登山報告 大塚登攀隊長

一、登頂報告 植村隊長

一、南壁登攀報告 小西隊長

一、各係報告

① 装備 平野隊長

② 食糧 土肥隊長

③ 気象 長田隊長

④ 医療 大森隊長

この後、東南稜ならびに南壁登攀のカラステイラが大家登攀隊長ならびに小西隊員の説明によって上映された。

報告書等の出版 と編集状況

エベレスト登山隊の記録・報告書類については、すでに毎日新聞社より次のものが刊行されている。

(イ) 毎日グラフ (エベレスト登山特集号)

(ロ) エベレスト登頂カラーイラスト

(ハ) エベレスト写真集 (45・11・30刊)

(ニ) エベレスト登頂記念絵はがき
これらについてはその都度「山」誌上でお知らせしたが、いずれも本会で会員一割引で取次ぎしているのが希望者は、事務局まで申し込まれた。

エベレスト写真集は、オールカラー定価六、〇〇〇円、邦文、英文の説明付の豪華写真集である。

本会では、この写真集を秩父宮妃殿下はじめ一〇〇万円以上の大口募金者、官庁関係、後援団体等の他、ネパール外務省、駐ネパール日本大使館、ヒマヤン・ソサエティ、インド・ヒマヤン登山財団、スイス山岳財団、ヒマヤン登山学校(ダーズリン)、アルパイン・クラブ、アメリカ、ドイツ、スイス、オーストリア、フランス、イタリー、アルゼンチン等、エベレスト登山に関係のある各国の山岳会宛、合計五七部を贈呈した。

公式報告書については、本会内部用(エベレスト委員会発行)と外部用(毎日新聞社出版局発行)の二本立てで編集をすすめている。前者については刊行の時期を三月末日に予定、目下編集委員会を組織して、鋭意編集に当たっている。後者については、本会内部用の公式報告書ができた時点で編集方針を検討することになっている。本会内部用の報告書はタイプオフセット印刷で部数に限りがあるので、希望者は早目に編集委員会宛申込みたい。(頒価未

定なるも三、〇〇〇円見当になる予定)なお外国山岳会のジャーナル用の原稿としては、アルパインジャーナル、松方、アメリカン・アルパイン・ジャーナル、大塚、ヒマヤン・ジャーナル、ヒル平林がそれぞれ執筆、頂上パノラマ写真とともにエディター宛送付予定

学術調査報告の学

会発表

(1) ヒマヤン地方の高度における環境調査
11月12日 日本雪氷学会において井上隊員により「エベレスト周辺の氷河調査」と題しての発表を行なった。更に同隊員により明春の日本気象学会において「ヒマヤン高山地域での氷河面での熱収支について」のテーマで発表の予定。

(2) 高所における生体変動に関する研究
10月12日 第24回日本体力医学会で医療班により「エベレスト峰登山における順化の様相」と題して発表。
10月19日 第十回日本生気象学会において「エベレスト峰登山に於ける順化の様相」と題して発表。詳細は、明年度の両学会に発表の予定。
(3) ヒマヤン登山における地球物理学的研究

河野隊員により明年五月の日本地球電気磁気学会および日本地震学会において「エベレスト山体の岩石残留磁気測定とこれによる造山構造の測定と研究」(仮称)ならびに日本測地学会において「ネパール・ヒマヤンにおける重力測定結果」を発表の予定。

登山装備品の保管

ならびに寄贈

エベレスト登山隊は、展示会用として四セットの装備品ならびに一般装備

品を内地へ持戻った。これら装備品のその後の処分については七月八日開催の理事・評議員会にはかって、方針をきめ、更に十二月二日開催の理事・評議員会の了承を得て次のように処理することになった。

(1) 本会保管品……酸素補給器を含む登山装備一式は、本会にジュラルミン・ケースに入れて保存する。

(リフトについては追って掲載の予定)これについては別途、保管ならびに貸出規定を設けて本会理事会で管理することにする。展示会等に出品希望の節は文書を以て理事等に申請されたい。

(2) エベレスト登山記念の資料として次の四カ所の博物館又は資料室に各々登山装備一式を寄贈。

(イ) 秩父宮スポーツ博物館

(ロ) 富山文部省登山研究所資料室

(ハ) 大町山岳博物館

(ニ) 松本、日本民俗資料館

(編者注)

昭和四十三年四月、信濃支部、高山忠四朗評議員らの依頼により、松本市に新築された財団法人日本民俗資料館に左記の通り、本会所蔵の絵画二点を委託出品しましたので、この機会に会員各位にお知らせしておきます。

記

一、中村清太郎作品「白馬岳」(油A・50号)
一、茨木猪之吉作品「富士山麓」(油A・25号)

(3) その他他装備品の処理

国庫補助により購入した装備品で処分制限財産に該当するものについては文部大臣に届出、認可をえて、次の様に処分又は管理することにした。

(イ) 大気放射計……京都大学防災研究所にて保管(井上隊員管理)

(ロ) 医療装備品……電光比色計、レスピロメーター、光電伝導度計、PHメーター、血圧計、その他医療器具一式(購入価約五〇万円相当)は、本会医療小委員会管理の

もと辰泊医院にて保管する。

(イ) その他の持戻り露営用具、登攀用具、酸素補給器、気象観測用具等はすべて文部省登山研修所に寄贈、有効に活用してもらうこととした

エベレスト登山記念品の受贈

念品の受贈

エベレスト登山を記念し、次の記念品が、本会に申し寄贈された。本会では、これら記念品を会の備品として登録し、未永く保存することにした。

① 印度山岳財団からの Scroll (貴状) Indian Mountaineering Foundation
は、インド隊のエベレスト登頂を記念し、今後エベレストに登山し功を記した登山隊に「Scroll」を贈ることを決めた由でその第一号が本会エベレスト隊に贈られた。本会ではこれを額に収め、備品として登録し(登録NO・一四四号)保存することにした。

② エベレストの模型

本会でも登山隊派遣準備期間中、準備委員の大森弘一郎氏が六、二五〇分の一の模型を作成し、南壁の研究用に使われたが、これは、記念として秩父宮スポーツ博物館に寄贈して保管をお願いすることにした。

これは別に、登山隊が帰国した直後、製図業の高野橋康氏の作になる四〇、〇〇〇分の一のMT-EVEREST実体模型(ガラス箱入)が、本会に対し、毎日新聞ヒマヤン登山事務局を通じて寄贈された。

(大エベレスト展にも展示された)本会では、これを会の備品として登録し(登録NO・一四四号)保存することにした。

③ 万博ネパール・パビリオン記念写真帳

本会では、万国博のネパール・パビリオンの建設に種々協力したが(「山」

二九八号五頁参照)、これに対し、ネパール王国大使館よりネパール・パビリオンの記念アルバムが寄贈された。本会では、本品も会の備品として登録し(登録NO・一四六号)資料室に保存することにした。

④ パシフィック・ナートの模型とTAR A (Mother of Butcha) 女神像

エベレスト登山隊はカトマンズでマナスル山時から当会と交流のあるネパールの友人と旧交を暖めてきたが、その一人クリシュナ・ババドゥール・ペルマ(ラム・ババドゥール氏の実兄で現 Cottage Industry Dept. の所長マナスル踏査隊の入国許可取得の際、ネパール体協会長として尽力した)より、標記二つの記念品が、本会に寄贈された。本会ではこれも備品として登録し(登録NO・一四七号及び一四八号)資料室にて保存することにした。

⑤ 資料室にて保存することにした。

⑥ 資料室にて保存することにした。

⑦ 資料室にて保存することにした。

⑧ 資料室にて保存することにした。

⑨ 資料室にて保存することにした。

⑩ 資料室にて保存することにした。

⑪ 資料室にて保存することにした。

⑫ 資料室にて保存することにした。

⑬ 資料室にて保存することにした。

⑭ 資料室にて保存することにした。

⑮ 資料室にて保存することにした。

⑯ 資料室にて保存することにした。

⑰ 資料室にて保存することにした。

⑱ 資料室にて保存することにした。

⑲ 資料室にて保存することにした。

⑳ 資料室にて保存することにした。

㉑ 資料室にて保存することにした。

㉒ 資料室にて保存することにした。

㉓ 資料室にて保存することにした。

㉔ 資料室にて保存することにした。

㉕ 資料室にて保存することにした。

㉖ 資料室にて保存することにした。

㉗ 資料室にて保存することにした。

㉘ 資料室にて保存することにした。

㉙ 資料室にて保存することにした。

㉚ 資料室にて保存することにした。

㉛ 資料室にて保存することにした。

㉜ 資料室にて保存することにした。

㉝ 資料室にて保存することにした。

㉞ 資料室にて保存することにした。

エベレスト登山特別会計報告書 (別表①)

昭和45年11月30日現在

貸 方	借 方
(エベレスト登山会計)	
国庫補助金	8,800,000
自治体補助金	7,000,000
毎日新聞社後援金	19,000,000
NHK後援金	20,000,000
雑収入	2,781,168
一般募金収入	43,368,600
日本山岳会負担金(イ)	11,334,311
計	110,499,238
(エベレスト関連会計)	
日本山岳会負担金(ロ)	4,164,447
計	4,164,447
合 計	114,663,685
登 山 隊 費	97,279,449
事務費	8,537,104
募 金 費	1,222,276
科学 研 究 費	3,159,409
事故 弔 慰 金	3,000,000
万 博 後 援 費	1,333,750
今後発生する残務処理費(見込)	1,300,000
余 剰 金 (見 込)	1,530,679
計	4,164,447
合 計	114,663,685

〔備考〕・日本山岳会負担金 (イ)+(ロ)=15,498,758

内 訳 { 会 員 募 金 4,713,917
 隊員負担金 9,000,000
 エベレスト関連雑収 1,784,841

・余剰金は年度末をもって一般会計繰り入れ、またはエベレスト基金として別勘定として計上する

(注) 山305号に掲載の9月30日現在の残高試算表の数字は、その後若干の勘定科目の組替を行なった。

この中の大きなものは、毎日新聞社後援金3,000万円中より1,100万円を募金収入に組替え、支出の項では雑費より募金費への組替である。

エベレスト登山隊収支報告書 (別表②)

昭和45年11月30日現在

1. 収 入 (単位: 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	説 明
国庫補助金	8,500,000	8,800,000	300,000	文部省国際スポーツ振興助成金
自治体助成金				
東京都	0	2,000,000	2,000,000	エベレスト登山補助金
大阪府	0	1,000,000	1,000,000	"
愛知県	0	1,000,000	1,000,000	学術振興補助金
神戸市	0	1,000,000	1,000,000	エベレスト登山補助金
大阪市	0	1,000,000	1,000,000	"
横浜 市 会 金 庫	0	1,000,000	1,000,000	"
日本山岳会負担金(イ)	11,500,000	11,334,311	△165,689	
NHK	20,000,000	20,000,000	0	報道関係後援金
毎日新聞	30,000,000	19,000,000	△11,000,000	"
一般募金	30,000,000	43,368,600	13,368,600	大蔵省指定特定寄付金
雑 収 入	0	996,327	2,781,168	
計	100,000,000	110,499,238	10,499,238	

2. 支 出 (単位: 位円)

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減	増 減 内 容 説 明
交 通 費	8,303,400	10,128,144	1,824,744	隊員増加による
現地 費	24,120,000	27,568,692	3,448,692	"
装 備 費	18,000,000	24,138,564	6,138,564	"
食 糧 費	8,520,000	4,522,044	△3,997,956	寄贈品多いため
食 料 費	14,500,000	15,416,130	916,130	
貨物輸送費	700,000	4,883,909	4,183,909	物資を空輸したため増加
医療 費	1,500,000	697,193	△802,837	現物寄付による
観 測 費	4,600,000	2,438,235	△2,161,765	"
梱 包 費	1,000,000	2,062,573	1,062,573	"
写真 費	600,000	146,892	△453,108	現物寄贈による
産 品 代 料	500,000	408,819	△91,181	"
土 産 品 代 料	800,000	1,093,215	293,215	隊員増加による
雑 費	2,656,600	1,076,069	△1,580,531	"
科学研究費	5,700,000	3,159,409	△2,540,591	"
事務 費	8,500,000	8,537,104	37,104	"
募 金 費	0	1,222,276	1,222,276	"
事故 弔 慰 金	0	3,000,000	3,000,000	"
計	100,000,000	110,499,238	10,499,238	

(注) 隊別の支出内訳については別表3参照

エベレスト登山会計報告

エベレスト委員会

エベレスト登山隊に要した費用は、会の通常会計とは区分し、エベレスト特別会計(エベレスト登山関係収支)として、収支両立として計上、処理する方針で(「山」三〇〇号一二頁参照)あったが、万博関係費用等は、補助金との関係があつて登山隊会計に含めることができない事情もあり、種々検討の結果、エベレスト特別会計を、エベレスト登山関係とエベレスト関連

会計の二本立てで処理する方針にした。一方官庁関係、地方自治体ならびに後援団体等に対し、事業総収支報告書を提出する必要があるため、十一月末を以てエベレスト登山会計の収支決算を行なうことにした。

なおエベレスト関連会計として、今後年度末までに一三〇万円程度の残務整理費を支出する見込みである。

エベレスト委員会としてはこの余剰

金を、エベレスト基金として残したい意向である。

エベレスト登山会計とエベレスト関連会計との関係については、別表①「エベレスト登山特別会計報告書」を、エベレスト登山会計の収支決算については、別表②「エベレスト登山隊収支決算書」各隊別の支出については、別表③「隊別支出決算内訳表」を参照されたい。

なお募金関係の報告については、別項、エベレスト登山募金報告を参照されたい。

隊別支出決算内訳表 (別表③)

昭和45年11月30日現在

(単位: 円)

科目	区分	第一次隊	第二次隊	本 隊	事 務 費	計
					募 金	
交 現 通 費						

関田美智子氏寄贈

(1) 一九七〇中央ネパール踏査隊『小さな旅の記録』昭和45
故行方沼東氏御遺族寄贈
(1) 行方沼東著『羊歯帯』日本シダの会 昭和41
定期刊行物受入報告
【郵報・会報】

(1) 広島山岳会『山毛榉林』No. 166～169 (45-7-10)
(2) 『北海道自然保護協会会報』No. 9 (45-12)
(3) 『北海道自然保護協会会誌』No. 8 (1970)
(4) 兵庫山岳連盟『兵庫山岳』No. 43 (45-12)
(5) 国立公園協会『国立公園』No. 252 (45-12)
(6) 京都山岳会『京都山岳』No. 547, 548 (45-11, 12) (50周年記念号)
(7) 『札幌医科大学山岳部季報』No. 14 (1969-9-1970-9)
(8) 日本自然保護協会『自然保護』No. 100, 101 (45-9, 10)
(9) 『都岳連通信』45年度号 (45-12)
(10) 日本山岳会東海支部『東海支部報』No. 10 (45-11)
(11) 『東京学芸大学山岳部部報』No. 7 (45-10)
(12) 日本山岳協会『登山月報』No. 21 (45-12)
(13) 横浜山岳会『山』No. 462 (45-12)
(14) 日本登山協会『山と雪』No. 152 (54-12)
【雑報】

(1) 『アルプ』No. 154, 155 (45-12, 46-1)
(2) 『岳人』No. 283 (46-1)
(3) 『HIKER』No. 183 (46-1)
(4) 『岩と雪』No. 19 (45-12)
(5) 『山と雪』No. 388 (46-1)
【その他】

(1) 日本山岳協会『山岳手帳 '71』

(2) 日本山岳会『山日記 一九七一年版』
(3) 札幌山の会『大雪・十勝縦走記録 '70-8』

Journals Arrived in December 1970

1. "Die Alpen" No. 10, November 1970.
2. "Appalachia bulletin" Vol. 36, No. 10, October 1970.
3. Der Bergsteiger Jahrgang 37, Heft 10, 11, Oktober, November 1970.
4. "The Himalayan Journal" Vol. 29, 1969.
5. "Mountain" No. 12, November 1970.
6. "The Mountain World" 1968/1969.
7. "Österreichischen Alpenvereins-Mitteilungen" Jahrgang 25, Heft 9/10, Sept./Oct. 1970.
8. "Panorama of Slovakia" 1970-5, 6, 7.
9. "Sanderos" No. 142, Oktober 1970.

洋書受入報告

1. Vincenzo dal Bianco 氏寄贈
Giovanni Angelini "Civetta-Mojazza" (Itinerari Alpini 4) Tamari, 1970.
(4・5・19)

おめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。東京という都市が何度目の冬を過ごそうとしているのか、数えればわかることでしょうか不思議なことに春も夏も秋も同じく何度目かを迎えていることになりました。時というのは怪物で、何度目とか何年目とかといった区切りには漠然とした印象しか与えないものが、何秒、あるいは何分、客観的に極く小さなものが何年にもよる数で表わすことは不遜な

ほどの内容を持つことが稀ではありません。(東)

会務報告

一月理事評議員会

(13日午後六時本会ルーム)

△出席者 吉沢、深田副会長、藤井、山崎、丹部、野上、神原、松本、宮下大森、小倉、中屋各理事、中田、折井、織内、金坂、村山各評議員、今井、小原監事
△議事

・年頭のあいさつ (吉沢)

世界各国の山岳会では立派な山小屋を持っている。JACに本格的なクラブ・ビレッジがないのはおかしい。エベレストも無事に終わったので、こしは神河内山荘の年としてやりたい。
・エベレスト国際隊の件 (藤井)

本会から推薦した小西、植村の二人は昨年暮山岳同志会の隊と共にグランド・ジョラス北壁を登り、手、足に凍傷を受け、現時点ではエベレスト国際隊への参加が危ぶまれている。とくに小西の足の凍傷はひどく、植村に即刻帰国して事情を聴取したいむね毎日新聞社に連絡を依頼した。急を要するため今後の措置は常務理事会に一任してもらいたい。この件了承。

・小西、植村氏帰国の件 (吉沢)
一月十一日毎日事業部長、運動部長と会い、植村帰国を依頼、二人は一月十七日帰国する。植村はスイスでディレンファース隊長と会見、行動予定を確認してきている。いずれにしても二人の帰国をまもなく後の会の方針を決定したい。なお国際隊は第一陣が二月十五日カトマンズ集合、二月二十五日カトマンズ発、第二陣は三月九日カトマンズ集合、チャーター機で三月二十一

日BC集合、南西壁は日本隊のねらった西側を登り、西山稜隊がこれをサポートする。
・エベレスト募金委員会の件 (村山)
十二月二十一日募金委員会を開き、財務面を決議した。これをもってエベレスト募金委員会はその任務を終了した。

・エベレスト残務処理の件 (藤井)
残務整理を即急に行ない、事務局員の会本来の業務に支障ないようにしたい。このためアルバイト要員の雇傭をしたので適当なものがいたら紹介してほしい。またエベレスト隊員の当番制を検討したい。

・四十六年度会員総会の件 (山崎)
四十六年度会員総会は四月十七日(土)とし、支部長会議は四月十八日(日)とする。
・ネパール大使館山岳関係世話係りの件 (小原)
カトマンズの日本大使館で山岳関係担当者を世話してほしいむね要望があった。緊急に適当な人員を紹介してもらいたい。

△報告
・海外連絡 (神原)
このほどネパールの吉良大使が辞任し、その後任に根本博大使が就任することになったので歓送迎会を一月十二日国際文化会館で日ネ協会と共催で開いた。

・学生部の件 (宮下)
全日本学生山岳連盟の日山協加盟をすすめているが、その前提として近く関東学生山岳連盟を結成する。

・山岳広告の件 (山崎)
山岳六十五年は目下編集 중이다、新しい広告をのせたいので協力をお願いする。

・神河内山荘の件 (折井)
山荘募金のアウトラインを作っている。

・小集会の件 (山崎)
三月十日阪大ビーク29の報告を住吉氏に依頼した。

物故者

一六九三 永原輝雄 昭和四五・一二
・一逝去
八九三 藤木九三 昭和四五・一二
・一二逝去

ルーム日誌 (45年12月)

2日(水) 理事評議員会
3日(木) パラジュリ氏並にカルマ氏
歓迎会

4日(金) 登山技術講習会反省会
9日(水) エベレスト委員会
12日(土) 第三回支部長会議

四十五年度年次晩餐会(於
マツヤサロン)

16日(水) 第二六六回小集会 京都山
岳会北中南米一七ヶ国踏査
とアンデス登山隊ベルーの

登山 佐々木徹氏

17日(木) 平井吉子さん送別会
19日(土) ネパール研究の集い日・ネ
協会

21日(月) エベレスト募金委員会

22日(火) 山荘対策委員会
23日(水) 忘年会

年末29日30日31日休館
十二月中来室者 三五九名

求む、ネパール大使
館登山世話係り

・カトマンズのネパール大使館で
登山世話係り一名を求めています。
・任期は二、三年です。条件は
次の通りで、希望者は大至急日本
山岳会事務局まで履歴書を添えお
申込み下さい。

・英語に堪能で、ネパール・ヒマ
ラヤの事情に通じていること。
・ひと通りの登山技術を持ち、単
身赴任出来る三十歳以下の男子。

現地支部長会議日程 5月22日12時
仙台市博物館集會、駒の湯泊。23日栗
駒山、ゆばま泊。23日鬼こうべ經由鳴
子温泉。一般会員の参加を歓迎します。
あとがき エベレスト残務処理関係
の原稿のため沢山の原稿が残りました。
た。三月号に載せます。(山崎)

昭和四十六年二月十日発行

東京都千代田区神田錦町
三二二三 向井ビル

発行所 社団法人 日本山岳会

編集代表 山崎 安治

(293) 七四四一
振替口座東京四八二九番

印刷所 株式会社 技報堂
東京都港区赤坂一丁目三番六号

山岳保険に入りましょう!!

- 貯蓄にもなります。
- 万一の場合にはひとの迷惑を軽減します。

御相談は **日本団体生命** へ

角筈支部 (専門取扱営業所)
東京都新宿区角筈1の844 新光ビル内
電話 (352) 1556・1557

☆会報製本御引受け☆

製本代 (251号~300号) 金700円也
送料 別受け 金120円也

ナカバヤシ株式会社

東京店・文京区水道2~15、電話 (943) 0311 (代表)
大阪店・都島区相生町7、電話 (352) 3491 (代表)
名古屋店・昭和区雪見町1~15、電話 (731) 7331 (代表)
工場: 大阪工場 (堺市)、東京工場 (戸田町)

▶背文字その他については往復はがきで
日本山岳会内「会報委員会」に御相談下さい

茗溪堂＝山の本

東京都千代田区神田駿河台2の1・Tel(291)9442振替東京24723

森林・草原・氷河

加藤泰安著

〈A 5判482頁〉定価1,500円

すこし昔の話

初見一雄著

〈四六判400頁〉定価1,200円

遠い山・近い山

望月達夫著

〈B 6判334頁〉定価960円

山の古典と共に

大島堅造著

〈四六判280頁〉定価1,500円

雪山・藪山

川崎精雄著

〈A 5変型判340頁〉定価1,200円

雪原の足あと

坂本直行著

〈B 5判206頁〉定価2,800円

40年のキャリアをもつ編集と内容。
赤いカバーでおなじみの……………

山日記 1971年版

日本山岳会編

〈A 6判400頁〉定価750円

山 岳

日本山岳会編

〈A 5判〉

64年 2,000円

63年 2,200円

62年 2,000円

61年 1,800円

60年 1,500円

国立公園カレンダー

国立公園協会編

〈A 5判リング綴り〉定価960円

屋久島・美しい豊かな自然

赤星 昌編

〈B 6判202頁〉定価480円

山で唄う歌1集・2集

戸野昭・朝倉宏編

〈A 6判126頁〉1集240円・2集280円

山に忘れたパイプ

藤島敏男著

〈菊判584頁〉定価2,500円

日本の山旅

足立源一郎スケッチ帖

〈A 変型208頁〉定価3,600円

アンナプルナ日記

京都大学学士山岳会編

〈A 12取変型判170頁〉定価1,200円

登頂ゴジュンバ・カン

高橋 進編

〈A 5判350頁〉定価900円

キンヤンキッシュ1965

東京大学カラコルム遠征隊編

〈B 5変型判220頁〉定価3,000円

南極新聞1956～7年

南極研究会編

〈B 5判横トジ〉定価600円

登山・スキー用具専門店

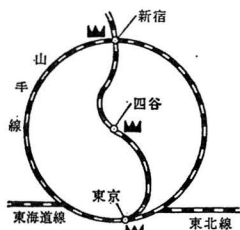
山の店

大阪市北区梅ヶ枝町101
TEL. 06(362)5736

●買い易い
山の店

●北へ来たら
山の店

●フレッシュな
山の店



四谷店 東京都新宿区三栄町三番地
TEL (351) 7432・1912
八重洲口店 東京都中央区八重洲二の五
TEL (271) 1560・8575
新宿店 新宿ステーションビル四階
サービスショップ
TEL (352) 6564

日本信販加盟店



山友社 たかはこ

山とスキーの専門店

片桐

東京都文京区湯島3丁目38-9

片桐 盛之助

電話 東京(831) 1794・6680番



かたろぐシンティ
でんや 281-8456
中央区・八重洲4の1

秀山荘

登山とスキー具

イワタ

東京都中央区日本橋通2-1
PHON: 271-7686・1718

登山用具の専門店

好日山荘

東京店 中央区銀座2-4-5 (561)3600・(567)9031
東京店 中央区銀座2-4-4 (561)0966 スキー店
大阪店 北区曾根崎上一丁目47 (364) 0933 (代)
福岡店 須崎町1-4 (28) 3440

